

王俊宇瀟 深山鳴泉

「わんじゅん・ゆーしよー」
[俊恵書画研究会会長]

墨でぼかした「面」と筆による「線」の組み合わせで、水墨画技法の要ともいえる「筆墨」の表現を豊かに見せることができる。

用具用材

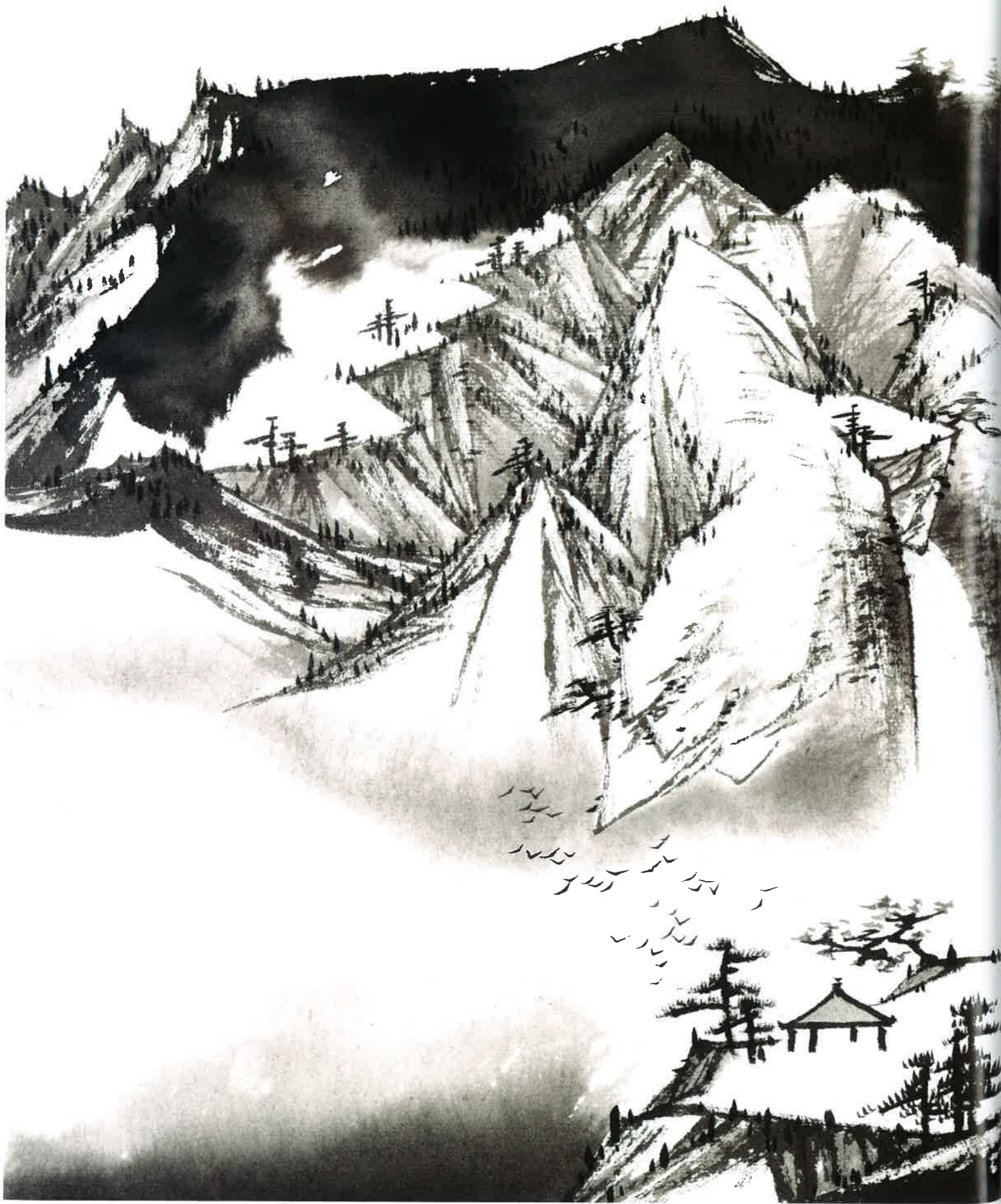
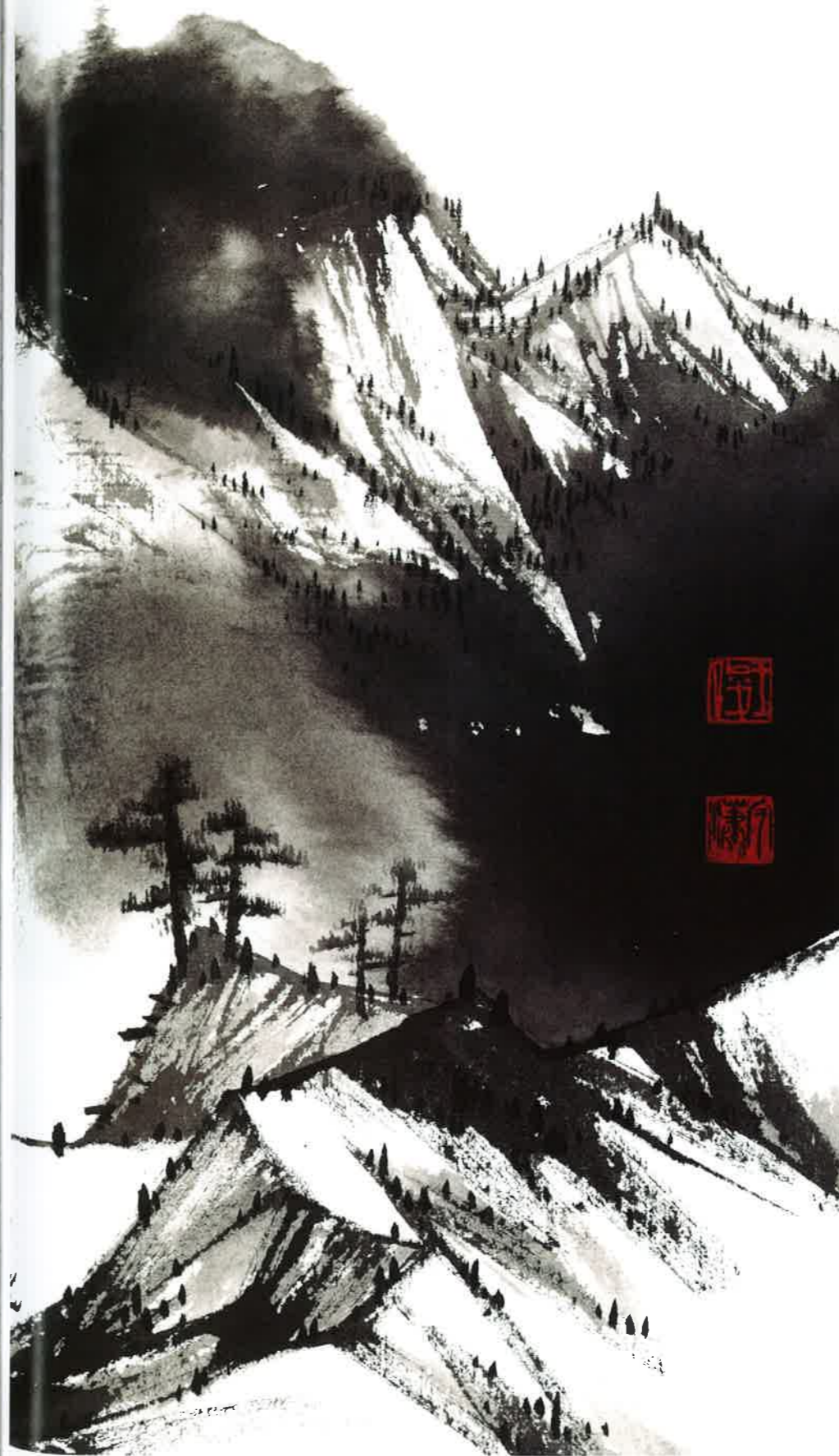
- ① 紙は滲み止めをしたものならどれでもよい。
- ② 墨は油煙ならどれでもよい。
- ③ 線は「斧劈皴」を応用するため、鼬の筆がよい。面の部分は羊毛または兼毫筆を使用。

構図のポイント

- ① 白(線)→黒(面)→白(線)→黒(面)と、交互に画面を構成することによって、全体のリズムと変化をもたらす。
- ② 近景と遠景を大きな松によってつなげる。これは伝統的かつ典型的な手法。
- ③ 飛んでいる鳥は山の高さを表す一方、画面左右のバランスと変化や近景・遠景のわずかな関わりに貢献する。

技法

- ① 固めの直線的な岩を表現するため、側筆による斧劈皴を応用。
- ② 墨の面の部分は、大胆豪快な「澆墨」技法(画面右、上)と丁寧な「染」の技法(画面左下)を併用。



35.0×46cm 滲み止め加工紙 油煙墨汁 鼬筆 羊毛筆